

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月4日(木)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:26人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>市として、人口減少を止めることにもっと力を注いでほしい。最近ベトナムから帰ってきた夫婦が、私の家に泊まっている。山口県に住むところを探しに行ったりしており、縁側がある家に住みたいと言っている。田舎に住みたい人はたくさんいるが、なかなか定住に繋がらない。1か月や半年住んでみるお試し住宅があったら良いと思う。予算を見ると200万円つけてあるが、これでは足りないのではないかと。周辺には空き家があるが、このまま10年するとダメになる。やり方については、検討が必要であると思うが、まきストーブがあって自家菜園を営しながら住みたいという声も聞く。都会に住む人からも田舎経験が必要だという話を聞く。そういった若者がいるので、住めるような環境をもっと真剣に考えてほしい。</p>	<p>・定住促進と人口減少を食い止めることは大切である。第2次三次市総合計画の中の4つの重点項目に人口減少と少子高齢社会に挑戦していくということを大きな項目としてあげている。若い人に選ばれるまちにするために、子育て・教育・住宅を含めた対応を進めている。全力を挙げていきたい。子育てについては、施策を充実しており、他市に引けをとらないと思っている。高齢者福祉の面でも、数年前には全国で2番の評価もしてもらった。これからも力を入れていきたい。また、海外からの人の確保については、これから企業や事業所で大きく進んでくる。福祉を含め行政としても、受け皿をどうしていくかといった施策は大切であると考えており、頑張っていかなければならない。地域になじむということについては、住民自治組織をはじめとした地域の皆さんが、外から入って来られる方に、いかに相談や協力などの手だてをしてもらうか、ということが大事である。先日、甲奴町で広島県知事を迎えたイベントがあった。甲奴町ではまさにそういった面に力を入れておられる。外国の方や縁のない方が定住しており、社会増にもなっている。これからは住民自治組織のみならず、地域の皆さんにも問題意識をもってもらいたいことが大切である。若い人の転入は増えている。移住にともなう建物の改修について、当初は3千万円の予算を組んでいたが、9月までで2千万円を計上し、5千万円の予算で対応していく。150人を超える移住者を家屋補修の中でみており、これまでにない姿である。住宅は大事であると思っているので、制度を充実させていきたい。また、若い人に選ばれるまちにしていきたいが、高齢者の皆さんにも入ってきてもらいたい。三次市ほど介護施設や高齢者施設が整っている地域はあまりないと思っている。どれか単体ということではなく、トータルで施策を進めていきたい。市の人口は、9月までで116人の社会増になっている。三和町では、「かえろうコール」を地域が企業にも参加してもらい、広島市で就職相談会を独自にやられたという動きもある。パートについては人が足りていない状況であり、募集が十分あると思う。</p>	
<p>私は、大学卒業後、川西に住んでおられる方の家に最初にお世話になったのがきっかけで三次に定住している。「ほしはら山のがっこう」に来られる方から、「7月7日以外にも天の川が見れるんですね。」と言われたことがある。自然とかけ離れている生活をしていると感じ印象的だった。今後、田舎を保たせていくには、都会の人を田舎に呼んで、たくさん経験をしていただき、田舎に住みたいと思う人を受け入れられるような体制をつくっていかれたらと思う。また、空き家を求めて来られる方から色々質問をいただく。例えば、「保育や教育で自然をとりこんだことをされていますか。」と聞かれることがある。家庭教育として、自然あふれる中で子どもを育てたい方が、空き家を探して来られることが多いと感じる。このことについては、詳しい知識がないが、要望がある智頭町などは自然を取り込んだ取組で定住がすごく増えている。三次も自然を取り込んだ豊かな教育が広がっていけば良いと思う。「病院や公共交通、地域の受け入れ態勢がありますか。」といった質問に対しては、市長が言われたように「進んでいるので定住いただけます。」と答えられるので、大変うれしく思う。また、「パートがありますか。」と聞かれた際には、「川西郷の駅が募集しています。」と答えられた。そして、「老後は大丈夫ですか。」と聞かれたときにも、川西は大丈夫です。」と答えられ、まちづくりが進んでいることに感謝している。</p>	<p>・学校で取り組んでいる自然体験については、総合的な学習の時間を設けている。地域の方にお世話になって田んぼや畑の体験を学年に応じて実施している。三次版わくわく体験活動では、「ほしはら山のがっこう」を多くの学校が利用させてもらっている。その中で、いろんな自然を体験できるものを手作り工夫してもらっている。同様に民泊を受けてくださるところで自然体験をしている学校もある。また、学校のすぐ側に大きな森があり、そこを公園にして自然が体験できる場所に再生しようと、地域の方のお力を借りながら特色ある学校づくりに取り組んでいる学校もある。その狙いとしては、地域の方がその敷地でウォーキングできるようにして、一緒に体力作りをしてもらえるようにしたいとの要望があったため、市としても一緒に取組を進めているところである。家庭だけで十分自然体験ができない場合もあるため、そのきっかけ作りとして学校教育も取り組んでいる。自然の良い場所などいろいろと良いものがあれば学校のほうへ還元していきたいと思う。</p> <p>・お試し住宅として、個人でお持ちの住宅を借りて必要があれば改修等をして、試みに住んでいただくということはなかなか困難な状況である。今市で行っているのは、カヌー公園や君田等にあるコテージに安価に1～2週間程度住んでもらいながら三次を体感してもらうということをやっているが、現在件数は少ない状況である。まず三次市に住んで田舎を体感していただくためには、どういった方法が現実的かご意見を参考にしながら検討していきたいと思う。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月4日(木)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:26人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>空き家を紹介する中で、ハザードマップ上で、その住宅の上にある山の部分が土砂災害危険地域に指定されていたことが一番の大きな原因で、契約に至らなかった件がある。何を基準に斜線がひかれているのか詳しい知識がなく、外から入って来られる人への説明の仕方や、予防する工事の方法があるのかなどが分からない。今後一緒に考えさせてもらいたいと思う。</p>	<p>土砂災害のハザードマップについては、まず県が調査をし、翌年度に調査結果の説明会を開き、更に次の年に地域の皆さんとハザードマップを作っていく。その際には、危険な場所、自主防災組織や市が設定した避難場所、避難経路などについて、地域の皆さんの声を聞きながら、一緒になって作っていく。イエローゾーン・レッドゾーンについては、平成11年に広島市で発生した豪雨土砂災害をきっかけに、平成13年に土砂災害防止法が作られた。それに基づいて、危険のある地域をイエローゾーン・レッドゾーンに分けた。土砂災害については、3種類あり、①急傾斜地のがけ崩れ②土石流③地すべりの3つの危険区域について広島県が調査し、警戒区域にも指定された。さらにそれに増して危険な箇所は、特別警戒区域としてレッドゾーンに指定されている。平成26年に広島市で土砂災害が発生したことを受け、県では独自の見直しをしている。全国の中でも広島県は危険箇所が多く、だいたい5万箇所近くある。次に多い島根県と比べても1.5倍の土砂災害危険地域がある。川西地区については、昨年度、県が調査を実施しており、今年度説明会を開催し、来年度に皆さんと一緒にハザードマップを作って各戸に配布する予定である。説明会にはぜひとも参加をお願いしたい。</p>	
<p>携帯電話がつながりにくい。「ほしはら山のがっこう」は、ほとんどつながらない。ポケットに入っていると圏外である。地域内交通システムを検討中でアプリの使用上でも、防災についても携帯にお知らせが入ってくる時代なので、携帯がつながることは大切なことであると思う。市からも要望を出してもらえないか。</p>	<p>・携帯電話の不感地域については、小さなエリアで進めている。君田町や布野町でも解消を進めている。ぜひ解消できないか検討していきたい。</p> <p>・具体的な場所を教えていただいたので、確認に行かせてもらいたい。どこの会社の携帯電話も電波状況が悪いということであれば、国の補助事業もあるので、それを使って基地局をつくる要望を市からさせてもらうこともできる場合がある。</p>	
<p>訪問者向けの観光や地域案内には、川西という地名が載っていないので、どこにあるのかわからないとよく言われる。他の地域も載っていない地域がある。鵜飼乗船場についても行き方がわからないという声も聞く。三次ならではの地名を入れた案内等があると良いと思う。</p>	<p>全体的な観光マップや施設の案内はあるが、それに細かい地名を入れたものは、なかなかできていない。三次に来られる方に持って歩いていただくにはどのようなものが良いのか、ご意見を参考にして検討したい。</p>	
<p>集会等で集まると、イノシシやシカの被害の話がよく出る。16、17人くらい狩猟者がいるが、平成28年度は、11月15日から2月一杯で川西でイノシシとシカを97頭を捕獲している。平成29年度は、100頭である。駆除を含めると更に多い。鳥獣被害で、お年寄りが農業意欲を無くすことが一番問題であると思う。解体場などが行政の力でできるとしたら、狩猟をする人の意欲にもつながり、鳥獣被害を減らせると考える。また、川西郷の駅でジビエ料理が出されたりなどしたら、にぎわいにもつながるのではないかな。</p>	<p>鳥獣被害については、近隣の市町を含めて相当数の被害が出ている状況である。三次市内全域でイノシシは平均して1,000頭以上、シカは約4百半ばから5百半ばの数を捕獲している。市としては、3つの取組を行っている。1つは、個人や集落を対象に田畑の防護柵等の補助。2つ目は駆除で、駆除班をボランティアに近い形で設置している。そして今一番力を入れているのが、3つ目のモデル事業の取組である。これは、駆除や捕獲について各集落でモデル事業に取り組むということである。各住民自治組織に最低1箇所、または2箇所各集落で話をしながら取り組む。他の町でも効果が出ている。例えば、バツファゾーンとによって、一定程度、里山で伐採により見通しを良くすることによって、イノシシ等が出にくくなる取組などもある。来年度は他地域で候補があがっているが、平成32年度あたりも視野に入れて、川西地域でも検討していただけたらと思う。また、ジビエの取組については、市の単独事業で2千万円の補助事業で三和町のみわ375でシカのジビエの取組をしている。イノシシも入っている。現在数百頭のシカの処理をしているが、狩猟した鳥獣すべてが使えるわけではないため、なかなか大変なのが現実である。庄原市も新たに施設を作ろうとされている。現実的には、なかなかジビエに使えるイノシシはない。どうしても衛生管理法上の取扱い等のこともあり、猟友会や駆除班と地元または販売・経営にもっていくには相当な努力が必要である。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月4日(木)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:26人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>7月25日に市のPTA連合会の会長と副会長が給食調理場再編計画についての説明を教育委員会に求めに行かれたと聞いている。その後どうなっているのか。保護者も生産者も対話を求めているが、なかなか動きが無い。現在の田幸の調理場と同じように、「豊かで美味しい手の込んだ給食で、献立をたてる人や給食を作る人の顔が見れる」というのを守っていききたい気持ちである。子どもの未来応援宣言は素晴らしいと思う。子どもの貧困問題への対策として学校給食は大事な役割を果たす。行財政対策の一環であることは保護者も承知であるが、子どもの未来を応援することを考えると、それだけで考えていいのかと疑問に思う。それも含めて、保護者や学校給食を作っている方々への説明を求めたい。</p>	<p>市のPTA連合会からも説明をしてほしいとお話しをいただき、現在11月2日に各学校全保護者への給食に関わる説明会を計画している。こういった場所でも色々なご意見を聞かせていただきながら、より良い給食にしていこうと考えているところである。貧困の問題にもつながるということで、学校給食は子どもたちの心身あるいは健康に大事な役割を果たしていると考えている。安価で栄養価のあるものをお届けできるというのが給食である。現在は、1食あたり小学校は240円前後、中学校は270円前後である。小学校の場合、その内訳は、ごはん(主食)が平均24円、おかずが約170円、牛乳は現在51円である。給食で昼食を1食摂ることで、そこから食育も始まり、また栄養士から、家庭へ食事の参考にいただけるメニューもお配りしている。しっかりと顔が見えるというところでは、これまで通り、栄養士・栄養教諭が各学校に出向き、食に関する指導を行っていくことを考えている。</p>	
<p>3ヶ月前に広島市からUターンしてきた。空き家なども色々見て考えたが、ひとり暮らしの場合には難しいと考え、今回は見送った。Uターン者への支援について、ハード面の補助があるが、ソフト面の整備が見えない。三次だからこそ住みたい、帰って来たいと思えるのは、顔が見える関係性というのが一番だと思う。ソフト面をもっと整備してもらえれば、より帰って来たいまちになるのではないかと。</p>	<p>・ソフト面というのが、具体的に色々と思いがあると思うが、まだまだできていない部分もあり、勉強していかなければならないと思っている。ひとつの例であるが、市内全地域ではないが、住民自治組織には集落支援員さんを配置しているので、そういったところに相談していただくこともできる。</p> <p>・起業支援については、女性を対象にして、みよしまちづくりセンターの1階に女性活躍推進プラットフォーム「アシスタlab.」(アシスタラボ)を4月から開設している。一昨年からすでに女性の起業支援についてのセミナーは実施していたが、今年から「アシスタlab.」を拠点として、女性の起業したいという方への初級編のセミナーや、起業する気持ちになられた方への相談・支援、また起業へ向けての寄り添い型の支援を行っている。実際に起業される方には、女性起業支援事業補助金というものがあり、事務所の新築や増改築等にかかった費用の2分の1上限200万円を助成する制度がある。また、「アシスタlab.」では、就業支援も行っている。</p> <p>・起業支援については、自営業で起業したい場合は、新たに店舗を建てる場合や空き店舗を活用される場合があると思うが、空き店舗を改修して活用される場合は、空店舗出店支援事業がある。資格をとりたい場合は、職業訓練センターがあり、市内に住んでいるもしくは、市内の企業に勤務している方は、無料で受講することができる。</p>	
<p>もっと定住にもつながるように、起業などを応援する事業があれば良いと思う。今後起業などを支援するような取組があれば教えてほしい。</p>		
<p>チャレンジできる子どもを育てるということについては、小学生時代に学校の先生が総合学習の時間を使って子どもたちのやりたいことを支援して実現させてくれた思い出がある。チャレンジのもとを積み重ねてくれた気がする。</p>		

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月4日(木)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:26人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次に来て14年近くになるが、三次市はぬるいと感じる。いろいろなことについて「やっています」と言われるが、事実やっているとは思いますが、やり方が足りないと思う。定住促進でも大分県の佐伯市では、とても力を入れて取り組んでいると思う。空き家バンクを見に来る際に何度か一緒にまわってみたが、少しやり方がぬるいと感じる。そういったところも佐伯市は非常によくやっている。テレビで見れる範囲内では、他市はとても良くやられている。大津町か邑南町では、若い人たちがどんどんやってきてA級グルメのお店がたくさんできている。三次市では、三次藩札というのをやって、市からお金を出してビジネスの手伝いをしている。企業を甘やかしてはいけないと思う。市の税金を使ってやるべきではないと思う。</p>	<p>・三次藩札は、三次市独自の単独事業である。元々は、国が全国的に経済対策を行うということで、不景気の中で地元企業の底上げをするため打ち出した。国の事業は単年で終わったが、市では、三次商工会議所、三次商工会からの要望もあり、市の施策として、この間続いている。大きな趣旨としては、取り扱い加盟店591店の活性化と、住民の生活支援のためであり、市民アンケート結果も満足度が高い状況で、ほぼ100%使われている。昨年度は、5億5千万ということで、大きな市の財源としてプレミアム分として1割の5千万円が入っており、効果もしっかり出ていると考えている。</p> <p>・定住対策については、住む場所や働く場所、また福祉や医療、子育てなど、まちづくり全体をしっかりとしないとなかなか成果が出ない。人口減少を食い止める特効薬はないと考える。地域づくり、まちづくりの中でしっかりとやっていかないといけない。空き家バンクについては、可能なところで地域の皆様のご協力をいただきながら取り組んでいる。更に知恵を絞りながら取り組んでいきたいと思う。三次でビジネスをされる方は、市内や市外から増えてきており、様々な知恵を絞りながら努力をされていると思う。行政としてもそういった方々の頑張りに対して、可能なところで支援をしていきたい考えである。商業だけでなく、農業の皆さんにも可能な所で支援をさせていただいており、産業全体のバランスのあるかたちでの支援を考えているところであるのでご理解をいただきたい。</p>	